

こ や す な かが わ ら い せ き い け い だ い つ き ど き
子 易 ・ 中 川 原 遺 跡 の 異 形 台 付 土 器

2018年12月1日

●写真の土器は、平成27年度（2015）調査で発見された異形台付土器（いけいだいつきどき）です。

大きさは口径9.3cm、胴部最大径11cm、高さ18.5cm（高台部含む）を測ります。発見時には全体がほぼ残っていましたが、取り上げる際に高台部が外れてしまいました。全面にべったりと朱彩が施されており、手に取ると指に朱が付いてくるほどでした。



興味深い形だね！



子易・中川原遺跡出土の異形台付土器
（所蔵 神奈川県教育委員会）

●この土器は、縄文時代後期の配石遺構に伴う土坑から出土しており、横倒しの状態で発見されました。はっきりとは言えませんが、丁寧に埋置されたようにも見えることから、何らかの祭祀（お祭り）に使われた可能性があります。

土器の器形や文様などから、縄文時代後期中葉の加曾利B2～B3式と呼ばれる土器型式であろうと思われます。



異形台付土器の出土状況

●異形台付土器は、縄文時代後期の関東地方を中心に分布する特徴的な土器ですが、その用途については諸説あります。いずれにしても、祭祀（お祭り）にかかわる特殊な土器だと考えられています。朱彩が施される事例もあり、今回発見された土器についても、出土状況などから縄文人たちにとって特別な意味合いを持つ存在であったことが窺えます。

